令和５年度春　子ども図書館おすすめ本

★中高生におすすめの本★

★『少年少女飛行倶楽部』　　加納朋子/作　文春文庫

中学一年生の佐田海月(みづき)は、幼馴染(おさなななじみ)で腐れ縁の友達・樹絵里(じゅえり)が先輩に恋をしてしまった事をきっかけに、先輩の所属する「飛行クラブ」という部活動に誘われる。自分自身の力で飛ぶことを理想としたその活動方針に、かなりの疑問と不安を抱えながら一度は断ろうと思った海月だったが、成り行きで結局入部する事に……。そんな謎の部活動は、物怖じしない部長の神(じん)と、樹絵里の惚れた先輩・海星(かいせい)、海月に樹絵里、それから不登校で高所平気症の朋(るなるな)。野球部を辞めた球児(きゅうじ)も加わってにぎやかになっていく。果たして彼らは空を飛べるのか――。

一癖も二癖もある宇宙人のような仲間たちの、鮮やかな青春短編集。

★『僕はかぐや姫・至高聖所(アバトーン)』　　松村栄子/作　ポプラ社

表題作『僕はかぐや姫』

女子高に通う千田裕生(ちだひろみ)は、一人称が「僕」の 17 歳だった。周りにも同じように自分の事を「僕」と称する仲間がいる中で、18 歳の誕生日が迫る裕生は自分の中の「僕」について考える。裕生がこの一人称を使うのは、決して男になりたいからではなく、性別より以前の「自分という存在」そのものを指す為だった。少女の夢見る少年像のように清らかで爽やかな一人称を好んで使っていた裕生。しかし彼女は次第に「僕」という一人称の、虚(うつ)ろな弱さに気が付いていく――――。

「僕」と「わたし」、大人と子どもの間で揺らぐ、繊細(せんさい)で切実な少女の物語。

★『四畳半神話大系』

森見登美彦/作　KADOKAWA/角川文庫

京都・下賀茂幽水荘に下宿している大学三回生の男の「私」は、かつて夢見た薔薇色のキャンパスライフからは程遠い、灰色の毎日を送っていた。それというのも二年前、まだ新入生だったころにサークル選びを間違えて、小津という妖怪じみた悪友を得てしまった事に起因する。小津の悪巧みにそそのかされ、悪ノリしたのが運の尽き。瞬く間に二年間を不毛な生活で浪費していた。もしも一回生のあの時に、別のサークルを選んでいれば、あるいは違う道を歩んでこられたかもしれなかったのに――――――私は嘆く。

映画サークル「みそぎ」を始め、様々なサークルに入部したパラレルワールドの私たちが繰り広げる、４つの「もしも」のキャンパスライフ。果たして私は薔薇色のキャンパスライフを送る事ができるのか――――――。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★